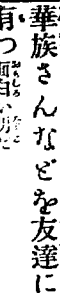


墨仙少雨
七月九日
晴
七時三十四分

△内地では白馬山（城覆審法院長談

高山植物 敦盛草



の草に秋立つそよぎ

◆北京にある日支婦人の黄菊會を装ひ何

日本婦人會員が徒らに美服

△今日の氣象學から申せば夏は六

婦人界消息

大宰監督の因明學識あり

とぞん先ふうかい
部一頁三行

あ

も立たぬ者も能ませぬが青島の戦争

にじます

二六八

一五、四六

[illegible]

八月發揚

下關米特雷

兩年の不賣時期なるに原因せ
ならんも價格暴落による購買
の乏し此處に乘せし瓦斯電燈普

んも煩瑣に

移出口に相場の出

白雲貝と共に卵々荷助子を示して人
知し南見直し來りたるが如く重炭酸

卷四 二六二八

入込みつゝある尊肝氣配を呈し掛巻
は此處百千の四十幾乃

●小豆白米一
附白の鹽上げに連れ小豆白米も八月

▲肥料の現況 魚肥は昨今需用旬間の折納が買主の面白からついに坐れ

十本

如し昨今の處何故と行ひつゝあるに
時に此の三の段物に渡さず附けられ

連れ殺人氣

▲大豆 地場用のものの買人にして組合保合なり

▲八日前場
兵庫朝寄十
五點四十七

多く六十六錢と押したるも判日は又
買物多く忽ち七十一錢と跳ね返した

▲八日前場 中國台十三號五十五錢
三錢四錢五錢四錢平均每段五十五錢
色五十四錢 五十四錢出米高四千八

又、七十一錢區、箱局七十四丁

上は足る。時に意夕
二は客なしとも保し、
前途

三四十錢の商材を見たるは市場に於
て一向商内行はれず表面額より平靜

主 ならんと言調せられつゝあり
果して如何なる結果を見るか

あるから、今に如何なる道に吃驚し

二	一	出	安
節	來	高	值
十二	萬	千	十二
面	七	百	圓
六	十	錢	六
錢	石		

六高

竹尾常葉 安部橋三
河内縣郡岡村

新刊
福島氏長
二七五五
（通年）

日 三月十六日
三月廿六日
六月廿八日

一毛

特價發賣以來其完全無敵なる活動家の携帶品として至便なる點に於て到る處最高評を博し豫想以上の好成绩を取れば聊か謝意を表する爲跡五千本を限り特價六十四錢（原価九拾全金）
（元箱三〇〇番）

▲國家適應症▼

- 貧血、虛弱、精力減退
- 老衰、產後、神經衰弱
- 病後、腸病、消化不良
- 老人等養分必要の諸症

●各藥店ニテ「寶體」キ地方ハ本舖ニテ金貨ト注文アル小包便取可也

定價

- 大瓶 壹圓七拾錢
- 中瓶 四角
- 小包 二角

試用 貳拾錢也

本舖西小
總代理
師劑藥
衛兵久舖
卷九一九版大庭口醫監

最 高 滋 養

本劑は糖と磷酸と佳性力味なる數種の高貴營養料により成り在來藥「フエラトーゼ」採用して益々好計

味は葡萄酒以上にして些の酒精分なく老幼男女の別無く一家の健康を保障し弱者には最高の營養料なり

宮本武藏

第百二十三回 桃川如燕口演

桃川如燕口演
浪上義三郎連記
桃川如燕口演
浪上義三郎連記
桃川如燕口演
浪上義三郎連記



傳五郎...
傳五郎...
傳五郎...

演藝案内

大正館
御成座
黄金館
演藝案内

演藝案内
御成座
黄金館

演藝案内
御成座
黄金館

化粧傳授圖解 其二 貴婦人令嬢之巻

美人となる近道

貴婦人令嬢實驗
美粧俱樂部應用

序順	化粧品名	美しい化粧の仕方
一	化粧洗粉	先づ第一に化粧洗粉を顔全体に塗り、水で洗い流す。顔の油分を洗い落とす。
二	美身ゼリー	化粧洗粉を洗い流した後、美身ゼリーを顔全体に塗り、乾燥させる。
三	美の素白粉	美身ゼリーを乾燥させた後、美の素白粉を顔全体に塗り、白くする。
四	牡丹刷毛	美の素白粉を塗り終えた後、牡丹刷毛で顔全体を軽く叩く。
五	水刷毛	牡丹刷毛で叩いた後、水刷毛で顔全体を軽く叩く。
六	濡タオル	水刷毛で叩いた後、濡タオルで顔全体を拭く。
七	クラブ頬紅	濡タオルで拭いた後、クラブ頬紅を頬に塗り、赤くする。
八	クラブ白粉	クラブ頬紅を塗った後、クラブ白粉を顔全体に塗り、白くする。

下週期大新聞
第三版

京城日報

刊朝日九
(頁八てせ合と刊タ)

經濟的統一

（一）經濟的統一
（二）國境の經濟
（三）鴨江を下る
（四）北陸對露貿易
（五）鮮牛の内地移入
（六）清陰佳話
（七）問答二束
（八）再版賣切れ三版大増補發賣
（九）朝鮮語會話
（十）早稻田工手學校
（十一）明治大學學募集
（十二）高等豫備校募集
（十三）各種眼鏡專門
（十四）宮川大學堂
（十五）東京案內

（一）經濟的統一
（二）國境の經濟
（三）鴨江を下る
（四）北陸對露貿易
（五）鮮牛の内地移入
（六）清陰佳話
（七）問答二束
（八）再版賣切れ三版大増補發賣
（九）朝鮮語會話
（十）早稻田工手學校
（十一）明治大學學募集
（十二）高等豫備校募集
（十三）各種眼鏡專門
（十四）宮川大學堂
（十五）東京案內

再版賣切れ三版大増補發賣

朝鮮語會話

早稻田工手學校

募集

明治大學學募集

募集

高等豫備校募集

募集

各種眼鏡專門

宮川大學堂

東京案內

東京案內

渡邊默禪

[illegible]

安原氏の経歴は肺病救療の役々宛の福音なるのみならず、或戦無眼の盲者として一雑誌に報道せんとす。

忠に今、盲人が書き直る安原氏は、尚得新歌千曲に上り、暢車十八の如く、俗化、然に斯間、たつて。

の利土なるか安んじを知らず氏は、數十年の可き肺病に呻吟し、漸に、歌道、を傳へられ、其、氏は假令、命を盡して、其、生命に代へ

[illegible]

然るに此の生來の體格、今も第二に
 有名譽を聞かざる程なりしかば流石に
 評代の迷信などには耳を傾けず何
 るもふさふさ命なりとせば進んで
 理を探究して研究し作功也と信
 する以上は前人の未だ試験せざる
 點の實驗にても生死を賭して自己肉
 體の質に一面より之を見れば一
 歩を以て幾十萬同病者の爲め身代
 となれる體あり又命懸念山中
 が肺病に作功ありと聞き之を
 手に入れた秘密なる研究を重ね
 へある中旭山、山を照らす
 如き體格の結果と相違
 つて個々を定めて
 體格ある一研究
 を服用するに及
 んで不思議に
 覺悟し祖師の
 苦を日毎に感ず

是だけの人力を算するには非常の努力を費さなければならなかつた。最初源作から總帥御世を勸諫すること、いづれも意外に驚いた。

「馬鹿につかす。これ、彼岸まで過ぎた後なら兎に角、雪のふるさかりに、はたな無茶かたたてやちやかねぞ（そんな冒險談を言つたところが相談にならぬ）」。龍が襦を越へられつか、なんだか、考へて見ても分れば、無理なことをしたら命が無かんべちややい。俺やんだ（可厭だ）。命は金で買はんねとかう。」

と一口に消えながら、流矢の下に落ちかうとした。勿論、拒絶する者が當然であつた。もし拒絶せぬ者は、

「それによつて自分が大狗の本領に内科外科花柳病科入院院意電話二九三四番」

それに添へて自分が大狗の本領に内科外科花柳病科入院院意電話二九三四番

せたとこそ、必き獲物を與へてくれん」といふ裏までさせたを語した。半生利慾に没溺であつてそして、人情に致く、正直と一徹と村人の情に致く、多くの熱意をはらはれてゐるこの老獬狻が、熱心にかく懇諭する言の類には、それでも感ぜざる者がある。猿彦さい子の代までも樂々と言せるだけの金を貰つてやるし何のもなく歸られてくれ一人傭ひ日に三兩は賦つてくれたる約束であつた。十日で三十兩たら寧ろなかつたべ。」

火のきつたにひく殿かやの
 宮に付き夕かげの花
 霞はしめすしく月を見る
 夜半の影をうきて翁盛かやり
 ふくみする 佐木信二
 人々たまたまこの夢ひきて行く
 佐木信一
 かきたるすねしゆかしき幾か家の
 かたむく帳をもるゝ琴の音作野 藤井
 のうきをなくさめかれてこる琴の
 人をなにくくらむ 九野
 年をへにけり
 遊藝家英郎
 すかしの音をゆかしき大和琴大宮
 のひかりまつて

明しない露がいつた空模様であ
 たからもしや降られはしまいかに
 不安の雨持のうちに羅島方町へ上
 釘りに出掛けること或る漢江の代地
 一行釣鉤に飽へず其のく居る
 かと云ふて居る處へ一寸其の様を寫
 紙に綴りますからこて振されたのが
 貴社其日の夕刊紙面へ日曜の朝ニ
 雑誌にてとして載つて居るので照
 幸早々御アツと登きました物々御
 慰に感心の外ありません今日晩餐
 の餚の食前に寫眞が非常に興を添へ
 ました(無名氏)

是より、**肥後**・**奥州**を公認せる「**肥前**」全治事
 を其を論述し同病者を救ひ居られるが
 其の然るべき内容は意外の興味と的
 中なる**腎虧**を信し**肥前**治療上の献儀
 であるが氏は此大書冊を同病者に無
 嫌なく本つゝあれは肺病、肝臓、氣
 管、血管等を取敢て東京日本新聞に
 二安原尚親氏へ宛て京成日報紹介さ
 れた。遂に世で申込み一讀して全快し

入
 院
 隨
 意
 酒
 井
 婦
 人
 病
 院
 電話二六〇〇番

[illegible]

目ニ見ヘテ
ズンぐトキク
シユマズイタマヌ
井上博士ノ
ロート目薬
クスリ



此の目薬は、
眼の病を治す
のに、
最も
効果
がある
ものである。

[illegible]